

# みつき便り

145号  
10月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成30年10月1日 [https://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)



## トンボ (蜻蛉)

秋風が吹き始めたここ見次公園にもトンボの姿が見られます。先日はギンヤンマのペアが飛行するのを目撃しました。ギンヤンマはオニヤンマと同じくらい大型で、空中を飛行する様は迫力があります。子供の頃ギンヤンマを捕らえるのに、糸の先にメスのギンヤンマを結び、その糸の反対側を小枝の先に結わえ、小枝を頭上でグルグル回すとオスのギンヤンマがやってきてメスにまとわりつき捕獲したものです。これは縄張り意識が強いせいだったのかな…。

捉えるといえ、シオカラトンボ等が止まっている前に行き、人差し指をトンボの目の前で円を描くように回すと、不思議とトンボは動かなくなったり簡単に捕まえていた記憶があります。小石を糸に結びつけ空中に投げるとエサと間違えトンボが糸に絡まって捕らえられる方法もありました。

トンボは世界中に五千種、日本には約二百種いるようです。これからはアキアカネ(赤トンボ)の季節です。当公園でもまもなく見られるのではないのでしょうか。(重)

## ハウセンカ (鳳仙花)

ボート小屋近くの花壇と東側の花壇にハウセンカが咲いています。『枕草子』にこの名があり、花の名前の由来は花の姿が伝説の鳥・鳳凰(ほうおう)が羽ばたく様に見えるからです。

花は熟すとちよつとした刺激でも弾けて黄褐色の種子を弾き飛ばすので「私に触れないで下さい」という花言葉がついています。



子どもが紅色の花びらを絞って爪を染めて遊んだところから、「つまくれなひ」、「つまべに」、「染指草(ソメユビグサ)」という別名があります。ハウセンカは沖縄では、「ていんさぐ」といいますが、「ていん」は手、「さぐ」は綾で、爪に綾を染める花のことです。「ていんさぐぬ花」という有名な民謡もあります。(薫)

ていんさぐぬ花や 爪先(ちみさき)に染(す)みて

親ぬゆしぐとうや 肝に染(す)みり

(鳳仙花の花は爪先に染めるけれど、親の言うことは心に染めておくんだよ)